

未来共生学講座

未来共生学講座では、現代社会のさまざまな人権・差別問題やその他の共生にかかわる諸問題に対して、過去の現実を踏まえつつ、共通の未来に向けた斬新な共生モデルの構築をめざす。具体的には、人々の共生についての哲学的・歴史学的検討、宗教、芸能や学校が果たす役割、災害救援、災害復興、防災と共生のまちづくり、マイノリティの社会的参画や地位向上といった課題群に対して、比較の視点を踏まえつつ、主として日本社会を対象とした考察を行い、課題解決の方途を理論的・実践的に探究する。

<共生の人間学>

共生という概念は実践とむすびつくが、それ自身、哲学的・教育学的・心理的・社会学的・人類学的な理論や、その背景にある人類史的・進化論的・未来学的な広がりを含む。共生の理念には、身体論・ポストコロニアル・テクノロジー論・精神医学／脳科学などの知見を動員する必要があり、人と人の共生に加え、生物としての身体や環境、あるいは機械（ロボット、情報ネットワーク）やモノとの共生をもその条件となる。本研究分野は、実践への志向を忘却することなく、その理論装置を、人と人（パフォーマンス論・儀礼論・人間変容論・現代における精神と文化・生命倫理）・人間と自然（動物論や環境論・科学技術論）・人間と機械（ロボティクス・情報ネットワーク論）などを含みつつ追究する。

<共生行動論>

共生とは、具体的な言動によって達成されるダイナミックなプロセスである。そのあり方を探求するには、多様な言動が交差する現場に赴き、既存の学問分野にとらわれず、徹底して理論的に考察することを背景に、観察をおこない、現場の当事者とともに、実践を積み重ねていかなければならない。本研究分野では、アクション・リサーチ、計量分析、ディスコース分析など多様なスタイルで、多様な「現場」、たとえば災害現場、復興の現場、高齢化社会、多言語多文化地域形成などにおいて、共生の理念に裏打ちされた実践的研究を展開する。

<共生社会論>

現代社会においては、グローバル化の進展のなかで、雇用形態・ライフスタイルが多様化・細分化し、共同体的な人のつながりが急速に弱体化しつつある。本研究分野では、個人や集団が自分や他者の有する多様な人的・社会的資産をポジティブに認知し合い、これを積極的に活用し、協働することで、社会的諸課題を発展的に解消し、真の共生社会を構築していくための理論・方法論を探究する。教育における排除と包摂、格差社会における教育、音楽を通じた共生のコミュニケーション、利他主義やソーシャルキャピタルとしての宗教がテーマとなる。社会学・教育学・地域研究などの既存のディシプリンをベースとしつつも、学際的・領域横断的に実践志向の教育・研究を推進し、多様性に基づいた豊かな社会のあり方を探る。

<共生教育論>

教育の現状を批判的に検討するために、社会のグローバル化のなかで急速な変容を遂げつつある中等教育・高等教育分野における生徒・学生たちの生きられた経験を探究することによって、学際的なアプローチからの経験的研究を行う。そこでは、ジェンダー・健康・セクシャリティ・親密性・異文化接触・人権・多文化社会等のテーマに関して、質的な方法でアプローチすることにより「共生」の内実に迫る。めざすのは、よりよい人間関係と人々のウェルビーイングをもたらす研究・実践・社会政策を発展させることである。具体的には、日本の中等教育・高等教育へのIB（インターナショナル・バカロレア）の導入、若者たちの性的健康とウェルビーイングの増進、協働的な国際遠隔教育の推進、学校・大学における健康教育の国際的政策・実践の検討、希少難病領域における患者アドボカシーと教育の探究をおこなう。